

■都市気温

都市排熱

計画目標 ・都市排熱が抑制されていること。

現 状

■指標 年間平均気温（都市部、郊外部）

一般局9局において測定した年間平均気温（2010年度実績）は、次のとおりです。

川崎区（大師・田島・川崎）・幸区の年間平均気温は16.7℃で、多摩区・麻生区の年間平均気温は16.0℃でした。

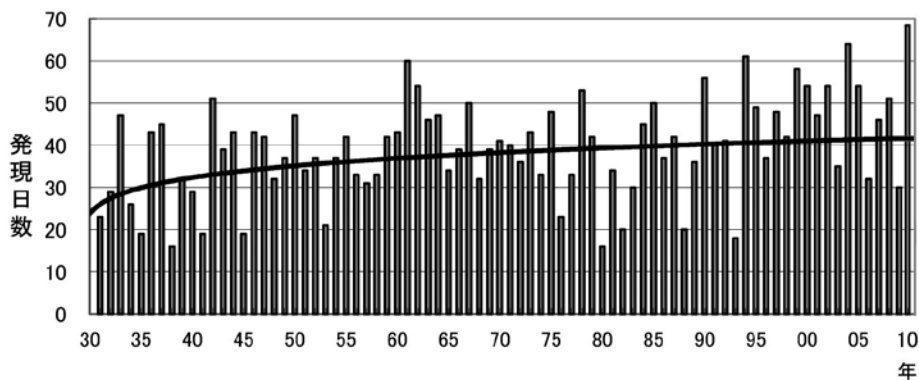
地域	臨海部			内陸部			丘陵部		
測定局	大師	田島	川崎	幸	中原	高津	宮前	多摩	麻生
平均気温（℃）	16.8	16.6	16.7	16.6	16.8	16.6	16.3	16.1	15.8

横浜気象台における1930年から2009年までの真夏日、熱帯夜、冬日の経年推移は、グラフのとおりです。

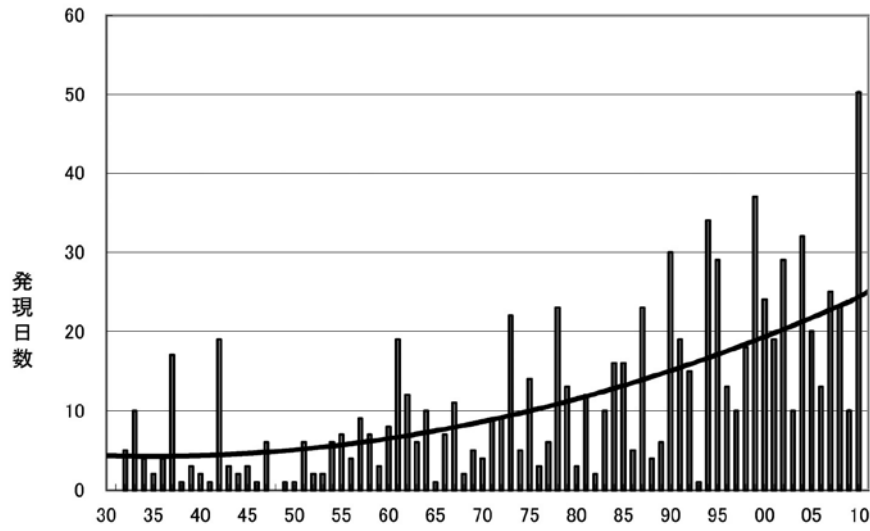
近年、真夏日（最高気温が30℃以上の日）の日数が増加していますが、熱帯夜（日最低気温が25℃以上の日）の日数の方が顕著な増加傾向にあります。これは、明け方の気温の下がり鈍っていると言えます。

また、冬日（最低気温が0℃未満の日）となる日が極端に少なくなっています。

（出典：横浜気象台HP、データは暦年）

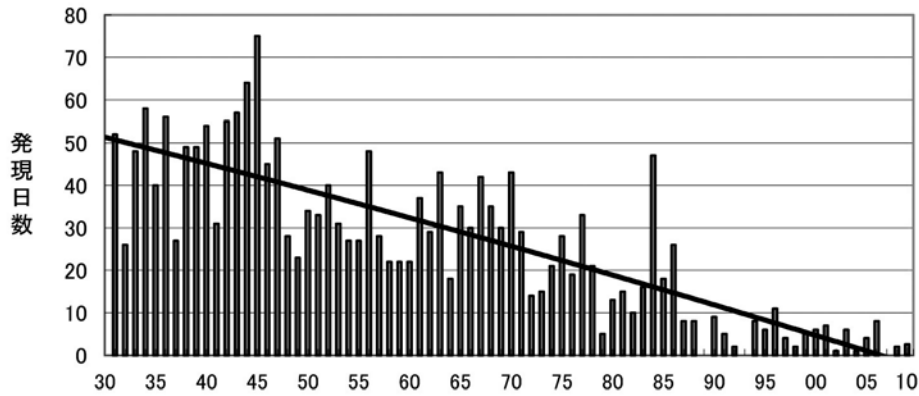


真夏日の経年推移(横浜気象台)



熱帯夜の経年推移(横浜気象台)

年



冬日の経年推移(横浜気象台)

年

なお、2010 年度の一般局における市内の真夏日、熱帯夜、冬日の発現日数は、次のとおりです。

地域 測定局	臨海部			内陸部			丘陵部		
	大師	田島	川崎	幸	中原	高津	宮前	多摩	麻生
真夏日(日数)	66	61	66	66	73	70	79	69	61
熱帯夜(日数)	60	56	57	54	58	55	54	49	37
冬 日(日数)	2	4	2	5	6	4	24	23	22

ヒートアイランド現象

都市域において、人工物の増加、地表面のコンクリートやアスファルトによる被覆の増加、それに伴う自然的な土地の減少、さらに冷暖房等の人口排熱の増加により地表面の熱収支バランスが変化し、都心域の気温が郊外に比べて高くなる現象。この現象は、都市及びその周辺の地上気温分布において、等温線が都心部を中心として島状に市街地を取り巻いている状態により把握することができるため、ヒートアイランド(熱の島)といわれる。

主な施策の概要

具体的施策名	2010(平成22)年度実績	2011(平成23)年度計画等
Ⅱ-5-1 ヒートアイランド防止対策の推進		
Ⅱ-5-1-1 人工排熱の低減		
都市の排熱を抑制する省エネルギー対策の推進	【Ⅲ-3-1 施策参照】	【Ⅲ-3-1 施策参照】
風の通り道等に関する調査研究の推進 [環：地球環境推進室]	□九都県市における共同の取組を検討	□九都県市における共同の取組を検討実施
Ⅱ-5-1-2 人工被覆物の改善		
樹林地の保全及び緑化の推進	【Ⅱ-2 施策参照】	【Ⅱ-2 施策参照】
水の循環構造の保全	【Ⅲ-4-1 施策参照】	【Ⅲ-4-1 施策参照】